

拜啓 田を渡る風が気持ちの良い季節となりました。
水野先生、ヘアレンツキャンプの皆様 いかがお過ごし
でしょうか。

さて、このたびは支援の卒業となり、お礼を申し上げます。
1年11ヶ月もの間 ■■■ の復学、継続登校
又、親も支えて下さり じより感謝いたします。
今は■■■が学校で使った体操服やくつ下などの洗
濯物を干す時にしみじみと喜びを感じています。

中学入学からのことを振り返ってみますと、入学の
喜びも束の間、4月の後半から週に1回体調不良
で休み始めました。「慣れない中学生活で疲れが出始
めたかな?」『こういう時もあるよね』と、休みを認め
ていました。その後、行事や部活動開始で疲
れが消化できなくなっていました。週に1~2回休む
ことはなくならず、6月も終わる頃、また「体調が悪い
休ませ」と言いました。このまま休ませはいけない
と思い、強い口調で「学校へ行きなさい」と言うと、
ベッドでむぎを抱えたまま全く動かなくなりました。
この時の■■■の表情から、これはまずいことになりや
うだと感じましたが、親だけでは子どもを動かさそうも
ないと焦りだけがありました。

早く手を打たなければと色々調べたところ、学校カウンセラーや、市の支援がありました。『子どもが動き出さずまで待ちましょう』という対応であることがわかり、1日でも早く学校へ戻りたいという親の考えからはかけ離れていました。

その後、ハアレンツキャンプのホームページにたどり着き、家庭内の問題点、子どもの性格に合わせた復学・問題解決の支援をしていることを知り『我が家が求めているのはこれだ』と希望の光が見えました。

支援前は、子上位・過干渉、又父性・母性の対応ができていませんでした。更に私が心配性な為子どもの様子を常にうかがい、先回りして手を出すという状態でした。

支援中は、電話カウンセリングで問題点に合わせた具体的な対応を教えていた事で、実践していくことで~~■~~~~■~~がどんどん変わっていききました。

親子の会話においても先回りの会話がなかなかやめられず、子どもの求めていることを察して先に答えていました。しかし、ノートを記入し親子の会話をチェックしていた事で、先回り、過干渉の会話に気づき、より良い会話を学び、子ども

との会話がいかに重要かと気づかせてもらいました。

今はインターネットで親から伝え、子ども自身で考え、答えを出していくことを積み重ねて徐々に自立していることを実感しています。

中学3年生になり、高校受験を意識しはじめ、将来のことも考えるようになりました。又、修学旅行にも参加し、友達と楽しい思い出も作る事ができました。

不登校は■■■にとってはつらい経験でしたが、ハのアレンツキャンプで家庭教育を学ばずにいたら、我が家の場合はいずれ何か問題が起きていたかもしれないと思うと、中学1年生の時点でハのアレンツキャンプと家庭教育に出会えて本当に良かったです。

水野先生、佐藤先生、辻先生、ハのアレンツキャンプの先生方に支えていただいたことに感謝しています。全国を飛び回り、お忙しいかと思いますが、どうかくれぐれもご自愛下さい。

敬具

平成26年5月30日

水野達朗様